

平成30年度 高知海岸保全フォローアップ委員会 議事要旨

1. 日時・場所：平成30年12月25日（火）14:30～16:00 国土技術政策総合研究所 8階会議室

2. 出席者：磯部、黒岩、荒木、加藤、藤田、村田、佐々木、久保

3. 議事要旨

- 「実験条件・実験結果の妥当性」については、実験及び、模型実験結果を確認した結果、妥当であることを確認した。次に「実験結果に基づくブロックの配置位置・基本断面形状の決定」については、設計外力に対して、岸側に30トンブロックを配置し背面補強するケース3が安定性、経済性等も含め妥当であることを確認した。
- 今回の実験結果は妥当であるが、実際の三次元的な現象では背後の水位がもう少し低くなり、岸側と沖側での水位差が大きくなり、ブロックの安定性が低下する懸念があるため、今後、平面実験を行う場合は注意すべき。
- 今回の実験において、背後の水位条件が重要だということがわかったので、今後は気をつける必要がある。
- 今回の結果で大事な点は被災メカニズムである。ブロック配置により波当たりが違うということが重要で、人工リーフが沖側にあることで砕波し、エネルギーが減衰する効果があるがゆえに、離岸堤を岸側に配置することが結果的に構造上優位になるということを表している。
- 今回の模型実験は1,000波で実施しているが、高知海岸において、実績の危険波浪相当の波浪の継続時間と同程度であり問題ない。
- 今回の人工リーフの改良で、当該海岸で必要なものが全てできるわけではなく、人工リーフの離岸堤化だけでは越波による被害が生じなくなるわけではないことを、今後の説明の中で正確に伝えていく必要がある。
- 今回の実験では、幅広い条件で実験を実施したことにより、人工リーフに対し、現況堤防の反射が及ぼす影響を確認することができた。

以上